# 彙　　報

## 第 57 回日本言語学会大会

島根大学において，昭和 42 年 10 月 6 日研究発表会，10 月 7 日研究発表会，公開講演会を開催。

1. 公開講演

琉球の言語と文学　　外間守善

出雲風土記の言語環境　　加藤義成

文体素としての散文のリズム　　小林英夫

2. 研究発表

鳥取県東伯郡羽合町方言の打消表現法
——打消の助動詞によるもの——　　室山敏昭

満州語付属形式 NggV について
——その分布と解釈——　　百田謙一

イタリア語の絶対最上級副詞について
——ボッカチオ「デカメロン」を中心として——
古浦敏生

ムンジャーニー語の輪郭　　縄田鉄男

Phonological Predictability　　橋本萬太郎
——The Case of Cantonese——　　霽子

元朝秘史蒙古語の「中合罕」について　小沢重男

現代日本語の助詞を分類する基準について
——助詞の相関——　　日下部文夫

## 昭和 42 年度第 3 回委員会

日時：昭和 42 年 10 月 7 日

場所：島根大学

出席者：（　）内は委任状受託数

岩井隆盛，亀井孝，高津春繁 (13)，小林智賀平，小林英夫，佐藤孝，徳永康元 (2)，服部四郎 (1)，村山七郎 (1)

白紙委任 1 名　委員総数 34 名

議決事項:

1. 新村前会長の葬儀の件について委員長より報告があった。
2. 第 58 回大会の開催地を東京外国語大学 AA 研に決定した。

昭和 42 年度第 4 回委員会

日時: 昭和 43 年 1 月 13 日

場所: 学士会館本郷分館

出席者: ( ) 内は委任状受託数

北村甫, 高津春繁 (10), 河野六郎, 小林智賀平, 小林英夫, 佐藤孝, 鈴木孝夫, 服部四郎 (3), 村山七郎

白紙委任 2 名 委員総数 34 名

議決事項:

1. 第 58 回大会に関して次のように決定した。
   (1) 運営委員長は柴田武氏。
   (2) 5 月 25 日午後 2 時から公開講演, 会員総会, 懇親会を行う。
   5 月 26日午前 10 時から研究発表会を行う。
2. 言語研究 54 号を故新村出博士追悼号とすることに決定した。
3. 九学会連合の活動に関して鈴木委員より報告があった。

◇ 本会評議員, 時枝誠記氏は, 昭和 42 年 10 月 27 日逝去された。氏は明治 33 年 12 月 6 日, 時枝誠之の長男として東京神田に生れ, 私立暁星小学校・私立暁星中学校・第六高等学校を経て, 大正 14 年東京帝国大学文学部国文学科を卒業された。卒業後, 第二東京市立中学校教諭を経て, 昭和 2 年 4 月, 京城帝国大学助教授に任ぜられ, 次いで昭和 8 年 4 月同教授として国語学の講座を担当された。昭和 18 年 5 月東京帝国大学教授として同大学文学部の国語学の講座を担当せられ, 昭和 36 年 3 月, 定年退官され, 東京大学名誉教授となられた。引続き早稲田大学教授として同大学文学部及び大学院の講座を担当せられた。博士は, 本学会評議員の他, 国語学会では, 昭和 19 年創立以来理事として, 特に昭和 20 年から 39 年までの 20 年間は代表理事としてその発展育成に貢献され, その後も評議員として運営を指導された。又, 国語審議会委員, 国立国語研究所評議員としても尽力された。昭和 41 年 11 月 12 日には, 学術研究, 教育の功積多大なる故を以て紫綬褒章を授けられた。

博士は，言語の本質観として“言語過程説”を提唱され，それに基いた独自の言語理論を展開し，研究領域を開拓され，更に又，国語教育理論においても，言語教育を重視すべき主張をせられ，国語学界，国語教育学界に清新の学風を樹主された。昭和 16 年刊の「国語学原論」は博士の言語理論の根幹及びそれによって設定せらるべき領域を提示されたものであり，「国語学原論続篇」（昭和 30 年）にその発展が見られる。又，「国語学史」（昭和 15 年）は斬新な学史観の展開であり，「現代の国語学」（昭和 31 年）と共に国語学史研究の進展に寄与した所が大きい。「日本文法，口語篇」（昭和 25 年），「同，文語篇」（同 29 年）の二著は，博士の文法の体系的記述であり，「古典解釈のための日本文法」（昭和 25 年），「文章研究序説」（同 35 年）も，文法論の業績である。国語教育，国語問題の論著としては「国語問題と国語教育」（同 24 年），「国語教育の方法」（同 29 年），「国語問題のために」（同 37 年）がある。

昭和 41 年冬，病を得られて入院，手術を受けられ，一時回復されて活動されたが，翌 42 年 9 月，再び入院，治療に専念せられたが，その效なく，10 月 27 日遂に逝去された。享年 66 歳。10 月 30 日，東京信濃町千日谷会堂で葬儀式，告別式が行われ，12 月 15 日，五十日祭が執行われて，青山墓地の御墓所に納骨された。　（築島裕）